

1999年度の事業経過報告

〈はじめに〉

1998年12月、特定非営利活動促進法(NPO法)が施行されて1年半が経過しました。当初、出足が遅かったNPO法人申請もその後徐々に広がり、4月28日現在全国申請数は2359団体となり、そのうち1869団体が認証を受けて新たな活動を始めています。県内においては8団体が認証をうけており、全国的に比較すると出遅れの感はありません。

「どりーまあサービス」は在宅の支援活動を中心に介護保険下での地域の基盤整備や事業基盤の確立を目指す活動を続けております。

また、各保健所との連携による難病患者等の支援事業にも着目し、ここ最近においては「徳島神経難病自助ケア研究会」(会長：西田善彦)の事務局を務めることとなり、地域に根をはった活動をしております。

1999年度の基本方針・重点課題

当団体のNPO法人設立に伴い、組織体制の構築と各地域への支援体制確立に着手する。

1. 組織・体制に関する事項

外形的には構築出来つつあるが、役員・事務局体制はさらなる強化が必要。

(1) 法人化の経緯

- 1999. 2. 8 県環境政策課へ法人設立認証申請書を提出。
- 1999. 6. 7 県国際文化総室より法人設立認証書を受領。
- 1999. 6. 20 主たる事務所＝徳島法務局にて設立登記完了。NPO法人として正式に成立。
- 1999. 8. 6 指定居宅介護支援事業者 どりーまあ徳島 県より指定を受ける。
- 1999. 12. 20 指定居宅サービス事業者 ヘルパーステーションたすけあい 県より指定を受ける
- 2000. 4. 1 生活保護法のもとでの訪問介護事業 指定を受ける

(2) 役員体制

- 1998. 4. 1 任意団体設立時は役員5名(会長1名、副会長1名、理事1名、会計1名、監事1名)でスタート。
- 1999. 12. 1 NPO法人設立に向け、新たに役員組織構築。(理事長1名、副理事長1名、理事2名、会計1名、監事1名、その他顧問会計士藤井会計)

(3) 事務局の体制

- 1998年6月 パソコンパンチャール パート採用
- 1998年12月 事務局員(コーディネーター兼務)1名採用
- 1999. 1. 4 事務所移転(徳島市沖浜から徳島市かちどき橋へ)
- 1999. 7. 1 団体顧問として1名採用。
- 2000. 4. 1 公的介護保険制度下でのホームヘルパーとして常勤2名採用。

(4) 会員の数

●介護保険施行直前は全国的にも徳島県下においても地域が混乱に陥っていたため、一時会員数が低迷していたが、6月以降急増中。

2000年7月1日現在	協会員	216名	
	利用会員	261名	
	賛助会員	25名	
月間活動時間数	6月末時点		
	ボランティア	1235 時間	(合計 2117.5時間)
	介護保険	882.5時間	

(その他)

- 2000. 6. 18 徳島神経難病自助ケア研究会 事務局長として理事長 山口が任命される。
- 当団体のロゴ 理事会にて検討し承認を得た後名刺、封筒、パンフに使用

●ボランティア活動の時
からかわらせていただ
いていましたが、これか
らは甘えは許されない世
界に入り直したから、ど
のような仕事に直面して
もプロとしての自覚をも
ち前向きに取り組んでい
きます。 大塚 豊子

●活動を始めた頃はあれ
これ不安がつきまといま
した。でも私のような者
でも待つていてくれるし
喜んでもらえている事が
何よりも嬉しいです。た
だ、命を預かる大切な仕
事ですから慎重に慎重を
重ね事故のないようこれ
からも注意していくつも
りです。 栗城 久榮

●ボランティア活動時代
から入っていますがその
頃は楽しみながらやって
いたことも今では公的責
任を現場で感じていま
す。でも自分にとって
は、ボランティア活動の
経験があったからこそ今
の厳しさの中でも続けら
れているのだと思いま
す。 久次米清子

●ボランティア時代から
かわつていた人に介護
保険内のケアプランに基
づき引き続きかわらせ
ていただいております。
意識的に自分の中で明ら
かに変化しています。
少々体がしんどくても
「行かねばならぬ。」の
心意気で頑張っています。
戎谷 彰子

●ヘルパーとしてだんだ
んと仕事に対する心構え
もできてきたと思いま
す。利用者の方から、
ちよつとした事でも「あ
りがとう」と言われる事
が自分の原動力になつて
います。目標は、どんな
状況にも対応でき家族か
ら信頼してもらえるヘル
パーになる事です。 天野三佐子

●今「介護」の分野がと
ても注目されています
が、それだけにヘルパー
としての責任をもって頑張
らないといけないです。
ヘルパーをやつて良かつ

『たすけあい隊』が行く。 ふれあい 支えあい あの町、この人



た点は利用者と一対一で
向き合つて対話ができる
ことです。これからも
ゆつくりと落ちついた気
持ちでケアに携わつてゆ
きたいです。仁木真佑子

●ヘルパーとして、また
一人の人間として相手に
思いやりをもって支援さ
せていただきたいと思います
です。現場ではいろ
んな事がありますけど、
全て自分を成長させても
らえる勉強の場として毎
日は利用者と一対一で
向き合つて対話ができる
ことです。佐野 知里

●介護保険が始まって三
ヶ月、いろんな面で介護
という難しさがわかつて
きている今日この頃で
す。在宅の人たちとかか
わる中で自分の個性が良
い方向に生かされるよ
う、頑張っていきたいで
す。 藤田 時美

●四月から独り暮らしの
方の支援に携わつており
ますが、これでもいいのか
らにやっています。これ
からもより信頼してもら
えるヘルパーになりたい
です。 四宮 紀子

●資格をとる時に勉強し
た事や実習で学んだ事と
在宅の現場とは相当違
いがある、と痛感してい
ます。もつといるんな在
宅に入つてみてヘルパー
としての自分を磨いてい
きたいと思ひます。
福島加寿美

●お世話させていただい
ている人たちは、皆さん
支援を必要としている人
たちですのでボランティア
アでも介護保険でも気持
ちとしては変わりなく自

事務局だより

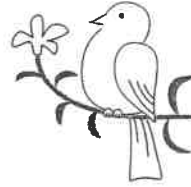
お中元の
受け渡しについて

私達のたすけあい活動はサービスチケットを介在させることによりお互いに余計な気遣いなく支え合っているようなくみです。
お中元のお心遣いはご遠慮させていただきます。

お知らせ

徳島神経難病
自助ケア研究会
(徳島SHC研究会)

どりーまあサービス内に事務局を置いています。
お近くにこういった分野に関心のある方がおいでしたらご連絡下さい。



送

障害があったり少し身体が不自由である方にとって一見何でもないことのようにもなかなかできないのが「外出」です。買い物・病院・お墓まいり等用途は違ってもどれも大切な事です。そんなお手伝いをたすけあい支援活動で担っております。



病院付添

日毎に増しているサービス内容の一つです。入院していると、病院職員だけでは担えない少しだけのお世話があります。それを家族ができない時間帯を「たすけあい」支援が代わりに手助けすることで大きな安心を生み出せます。



夜間見守り

家族と共に暮らしていても一緒に過ごせる時間は限られてきます。どうしてもお互いに心配が生じやすくなりますがそういった心の不安を縫い繕う針と糸の役割を担っています。



みんなの広場

スタッフ紹介

縁あって一つ屋根の下で暮らすのは、夫婦や家族だけではありません。
人間は、自分の意思以外の人も出会って、時々刻々と人生の道が切り開かれて、運命まで変わっていつてます。
人との出会いは、まさに人生の分岐点(ターニングポイント)で大切です。

おかげで今日まで、人との出会いがよい方向へ良い方へと進んできました。

これからも出会う人々が幸せをつかんでいって行きます。こんな心境で暮らしている人間です。
梶浦 洋一

徳島新聞「あどねつ」とのボランティア募集、ふと目にとまり私にもできることがあれば、
とそんな気持ちで扉を叩いて、そこから私と「NPOどりーまあサービス」とのおつきあいが始まりました。このご縁を大切にしたい、そんな一心で、ボランティアから専任スタッフとなつて早一年、見た目は地味な事務所ですが、飛び交う情報やアイデアは整理しきれないほどで、私も日々奮闘中です。



まだ駆け出したばかりで未知数の夢があるか

現場リポート

花菱ハルコさん宅

花菱さんと知り合ったのは、もう十年前のことですが、三年前、任意団体「どりーまあ」を立ち上げた時も真っ先に協力会員として登録して下さいました。

介護保険が始まってからは、ケアプラン作成、ヘルパー派遣、ボランティア派遣と種々な角度からご支援させて頂いた、益々「絆」も深まってきました。

いつも花菱さんから出る「また頼むわな。」の口調は十年前と全く変わりなく、そうした利用者の皆様からの言葉によって私たちは支えられてきたのです。
花菱さん、これからも「また頼むわな!!」



助成金のお礼

助成金支援

この度、日本社会福祉弘済会様より三十五万円の助成金を得ることができました。助成金の使途としては、地域援助活動の質的向上を図るための研修会の開催です。今後も在宅の現場において会員がより一層の安心感と自信をもって臨めるよう事務局としても頑張っていきたいと思います。

徳島SHC研究会 第三回定例会

日時 平成十二年十月一日(日)
午後一時三十分開始
住所 徳島市中昭和町
徳島県総合福祉センター
テーマ 「ALSについて」
講師 未定

※参加ご希望の方はどりーまあ事務局までお問い合わせ下さい。

会合のお知らせ

平成12年度よりスタートした「ヘルパーステーション たすけあい」では、5月より3つのコース(基本コース・中級コース・管理職コース)に分かれた職員研修を行っておりますが、紙面を通して随時ご報告させていただきます。

管理職研修

介護保険制度の成否のカギはズバリ「人」。今回のOJT研修の皮切りに、常に「人」を率先重視すべきリーダーとしてのあり方について理論研修に取り組んでみました。

内容

- ① 法人事業の「使命」の認識
- ② 法人事業の基本的な生き方、考え方の理解
- ③ 人材育成(指導育成の計画と方法について)
- ④ 問題発見と解決能力アップ(解決のために可能な実行手段)

基本研修

在宅介護の分野でヘルパーとして新しく仲間入りされたスタッフを対象に取り組むものです。このコースでは、現場で携わる者としての問題点や課題分析等をお互いに出し合っ一つひとつ解決していきます。

内容

- ① 応接の仕方
- ② いつも明るい表情で
- ③ 姿勢と態度
- ④ 話し方のポイント
- ⑤ 正しい挨拶の仕方
- ⑥ 仕事の知恵と誠実な心

検証

S H C 研究会 発足

パーキンソン病やALS（筋萎縮性側索硬化症）などの神経難病患者の自立を支援する「徳島神経難病自助ケア研究会」が六月十八日に結成されました。会員（予定）は、医療関係者や患者・家族の他、行政関係やボランティアら六十六名が集まりました。

今後、本研究会の事務局を「どりーまあサービ」が務めることになり、そうした分野での賛同者も募ってまいります。会長の西田善彦先生（伊月病院院長）も「神経難病患者やその家族・ボランティアの人たちとは共に

神経難病患者に対する

同じ立場に立ち、社会の偏見や病状の悩みなどについて話し合ったり、治療に関する情報を交換しあい、患者さんの生きがいづくりを支援していきたい。」と強調されています。

研究会に関するお問い合わせは、「どりーまあ事務局」まで。



サポート体制の取り組み

筋萎縮性側索硬化症（ALS）とは運動神経がすかされる疾患のひとつであり進行する筋力低下と筋萎縮が特徴である。知覚係知能は維持されている。ALSの本質的な病因は明らかになっていない。

平成二年九月発病して約十年、人工呼吸器装着して在宅療養六年半、やっと平穏な日々が送れる様になりました。発病してからだんだんと呼吸



ALSの会 発足

が苦しくなり夜間はとくに夜中に窓を全開して大きく深呼吸をしたり食事ものどを通らなくなり、プリンとかアイスクリームとか、とにかくやわらかい食べ物食べて空腹をうめていたがそれもかなわず平成五年九月二十四日救急車で緊急入院し、平成五年十二月七日呼吸停止。その場で人工呼吸器を鼻より装着。平成五年十二月十日気管切開、以後人工呼吸器を離せなくなりました。人工呼吸器装着までの約三年間病院での適切なアドバイスはなく近くの開業医では診てもらえず「専門医がない」とかそんなに家で居たければ「人工呼吸器を早くつけたらいい」とか大変ショックを受けました。

人工呼吸器装着後七ヶ月入院し、平成五年十二月七日呼吸停止。その場で人工呼吸器を鼻より装着。平成五年十二月十日気管切開、以後人工呼吸器を離せなくなりました。人工呼吸器装着までの約三年間病院での適切なアドバイスはなく近くの開業医では診てもらえず「専門医がない」とかそんなに家で居たければ「人工呼吸器を早くつけたらいい」とか大変ショックを受けました。

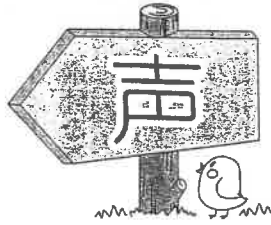
人工呼吸器装着後七ヶ月入院し、平成五年十二月七日呼吸停止。その場で人工呼吸器を鼻より装着。平成五年十二月十日気管切開、以後人工呼吸器を離せなくなりました。人工呼吸器装着までの約三年間病院での適切なアドバイスはなく近くの開業医では診てもらえず「専門医がない」とかそんなに家で居たければ「人工呼吸器を早くつけたらいい」とか大変ショックを受けました。

人工呼吸器装着後七ヶ月入院し、平成五年十二月七日呼吸停止。その場で人工呼吸器を鼻より装着。平成五年十二月十日気管切開、以後人工呼吸器を離せなくなりました。人工呼吸器装着までの約三年間病院での適切なアドバイスはなく近くの開業医では診てもらえず「専門医がない」とかそんなに家で居たければ「人工呼吸器を早くつけたらいい」とか大変ショックを受けました。

ミレニアムを想いめぐら

伊月病院 西田 善彦

一九九〇年代を米国で迎えた私は、decade of brain（脳の十年）という言葉を聞きました。日本と違って神経内科がメジャーな米国では、今世紀最後の十年を上記のように呼び、アルツハイマー病を始めとした各種神経変性疾患の究明に力（お金）を注ぐよう国中に一大キャンペーンを行ったのでした。それから十年、遺伝子工学やコンピュータを利用した各種検査の進歩などにより



予想を超えた勢いで神経科学は進歩して参りました。そしてこれから、century of brain（脳の世紀）を迎えようとしています。

まず神経疾患の特徴として生活習慣病などと違って遺伝子異常がいかにか疾患に関わっているか調べやすいことが挙げられます。このことは、異常な遺伝子がどの蛋白質をコードしているかを研究することにより、病気の原因である酵素や受容体など

地域をこえ 分野をこえ セクターをこえる全国フォーラム NPO フォーラム 2000 中国・四国会議

たしかな歩みへ —— 市民がつくる新たな社会 ——

二〇〇〇年を迎え時代の変わり目である今、NPOの活躍の場は急速に広がっています。そんな折、全国のエネルギーシユなNPO関係者約七六〇名が広島市に集い、二日間互いの熱い思いを語り合いました。

オープニングセレモニーは、地域社会・日本社会・地球社会それぞれの分野で先駆的な役割を担っている三名が縦横に論じました。まず、安藤周治氏（ひろしまNPOセンター・副会長）は地域社会の視点から「誰かがどこかで動機づけを始めないと何も起こらない。三〇年前にはほんやり想像していたものが現実のものとして今確かめられている」と。一方、今田忠氏（市民社会研究所）は日本社会の視点から「世の中のしくみを変える最後のチャンスだ。公共は政府の仕事ではもうなくなっている。地域で眠っている資源の発掘がNPOに求められている。」と提言。又、

地球社会の視点から、勝又英子氏（日本国際交流センター）が「自分たちの手でパブリックグループを共有することにより組織化・ネットワーク化のうねりを創っている。カギは信頼できるグループとなり説得力あるリーダーとして育っていくことだ。」とNPO・NGOの連帯性を語られていた。

その他、分科会も盛りだくさんの内容で時間をおしんで参加者同士「願いと「思い」をおつけ合いました。お互いに新しい時代の担い手であるという事が再確認されたことでしょう。 山口 浩志

